おとしよりの善意

学校に雑巾を贈る

長生きをしたが「何か世の中のために役立てば」と、今年89才を迎えたおばあさんが作り貯めていた心のこもる「雑巾」を、九月十五日の「敬老の日」に、小杉小学校に贈られました。

このおばあさんは、藤山の皆川キテさん（世帯主昇一氏）で、「私がこのように長寿を保ち、幸せな毎日を送ることのできるのも世の中の暖かい恵みの賜で、何か世の中に お報いしたいと考えていたが眼がとぼしく、体力もないので、できることは雑巾作りくらいのもの。雑巾を作って学校にでもやろう」と思い、日に一枚、二日に一枚と漸く二百枚ができあがったので、子どもが世話になった小杉小学校に贈られたもの。

また、木津の東城リク（72才）さん（世帯主守一郎氏）も、やはり雑巾を作り、木津小学校に寄贈しています。

両校とも、心温る贈りもので、子どもたちも大喜び、おばあさんの作った雑巾で学校をきれいにしようとはりきっています。

（せっせと雑巾をぬう皆川さん）

佐藤が一番……横越村の名字

神田美代子さん（中学1年）が調べる

横越村では、どんな姓があるだろうか、と横中一年神田美代子さんが興味をもって、夏休みの自由研究で調べました。

横越村では、全世帯が一、六九六で姓の数は三五二ありました。多い姓は表のとおりで、佐藤が一番多く、全村どの地域にも分布しています。同じ姓の世帯が一〇以上の種類は、四一も ありました。一世帯しかない姓は一五三で、全体の約四三％です。

そのうち六三は二本木であり、山崎パンの従業員の方の中に村外の方が多いせいでしょうか。地域で集団的に多い姓は、市村、石塚、神田、桜井、茅原、中村、永井の横越地区。伊藤、角田、別所、松本の沢海地区井越、石井、仲村、原、藤崎、村木の二本木。大竹、酒井、高木、小野塚の木津地区。残間、中川、長谷川、涌井の小杉。長谷部、丸山が川根谷内。皆川、田村が藤山地区。和澄が駒込地区となっています。

これらは親族関係で古来その地域に住居されていることによるのでしょう。

大変長い時間をかけて、暑い夏休みの間、役場の台帳で調べた努力は立派なものだと思います。村としても、よい資料になると思いその一部を掲載しました。

横越村の名字

順位	名字	横越	沢海	木津	二本木	小杉	藤山	駒込	合計
1	佐藤	54	19	17	17	7	2		116
2	阿部	30		5	5	5	1	4	50
3	渡辺	17	7	2	6	9			41
4	伊藤	12	27		1				40
5	五十嵐	16	8	8	2				34
6	高橋	22	7		1	2			32
7	神田	29	2						31
8	石井	8	1	19	1	1			30
9	遠藤	1		3	11	14			29
10	中村	19	4		1	4			28

文化祭

11月 3・4・5日

おもな催しもの（本館）

○菊花展
○郷土芸能大会
○高令者の楽焼展
○書道―生花展
○農産物品評会
○青年レース・あみ・ぬいぐるみ展

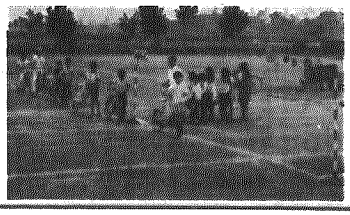
新田子ども会

交通安全教室開く

横越学区新田子ども会（佐藤登会長）では、発足以来楽しい仲間づくりの中で、種々の行事を進めて来ましたが、九月の計画の一環として、亀田警察署の協力を得て「交通教室」を開催しました。

この日、亀田署から長島交通課長が指導に当られ、「ミニ交通標識器具」を使用して実施しました。

佐藤会長から「交通課長、佐野駐在さんから交通ルールを良く聞いて勉強して、事故に会わないように」とお話しがあり、交通課長から歩行者としての正しい交通マナーを始め、自転車乗りのきまりや各種の交通標識などについての説明があり、佐野駐在さんが、正しい自転車の乗り方でグランドに設定されたモデルコースを一周した後、参加した子どもたちが交通課長、佐野さん、子ども会育成者の指導により、コースを巡つて折から「秋の交通安全運動」の意義ある一日を勉強されました。



家庭教育 ④

親は家庭教師になれない

「このごろは、子どもの勉強がむずかしくなって……」とか「理科や算数のことを聞かれると、さっぱりわからなくて困る。」という声を聞きます。だからといって、親は子どもの教育にそっぽを向くわけにもいきません。

子どもの家庭学習の指導のしかたについて考えてみましょう。

子どもが学校から帰ってくると、母親は、「宿題は？」「勉強をすませてから遊びなさい」とよくいう。

母親にとっては「勉強」ということばほど魅力的なものはなく、子どもが勉強さえしていれば安心しているようです。

ところがあまりの教育熱心が、親は家庭学習の先生となって、子どもの心情をかえりみずに、自由自在に自分の意志に従わせようとしていることが少なくないようです。

家庭学習

ここに、家庭教育の悲劇と喜劇が交流して、複雑な様相が現われてくるのです。

「ぐずぐずしていないでさっさと勉強しなさい。」と命令的になったり、「一〇〇点とったらおこずかいをあげてやるから」と代償を持ちあげたりする。そして、子どもをおどかすように「もう、なにもいうことをきいてやらないから。」といって押しつけがましい態度まで現わしてしまう。さらに「勉強しないと、先生に叱られないの」といった他力本願調にもなる。

子どもにいわせると、「あまり、がみがみいうから勉強がいやになる」という。

しまいには「たのむからやってちようだい」と哀願調になってきます。

子どもは、「じやあ、勉強してあげようか」ということになるのです。

このように、勉強をなかだちとして母子関係が対立してしまってはどうにもなりません。

近頃、「学習のしつけ」ということを耳にしますが、これは、子どもが、自発的意志に基づいて、自ら学習計画をたてて自学自習する過程のなかで、自律的、自主的学習をおこない、自己統制をするためのしつけです。

家庭における「学習のしつけ」を、効果的にしてゆくためには、家庭生活の一般的なしつけをどのようにすればよいか。また、どのようにしてきたかによってきまるようです。しつけが親の一方的な指示、命令、禁止、拒否などでは、子ども自身の願望、要求思考、想像、意志など配慮しないしつけとなってしまいやすいのです。

そして、過保護に育てた子どもの学習態度をみると、子どもに考えさせるしつけ、やる気を起させるしつけ、物事を最後までやりとおすしつけ困難なことに出合っても立ち向かってゆくしつけなどをやっておかなかつたように見うけられます。

教育熱心も結構なことですが、家庭は、学校の学習の延長、補充、予備場だけになってしまってはいけません。

親が教師の身代わり的な家庭教師になることもできなければ、また、なりうるものではないのです。

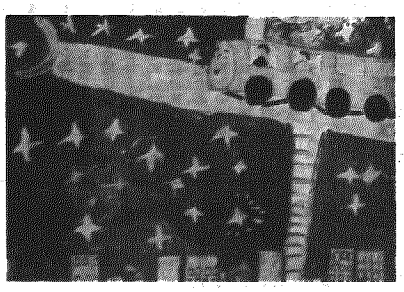
親は、相談、助言をすべきものなのです。

「教える家庭学習」よりも「考えさせる家庭学習」のあり方、基本的な家庭教育を研究してほしいものです。

こどもサロン

「ちやぼ」
沢海小学校一年　田中　実

≪評≫
この絵は、学校にかっている、したしみの深い「ちやぼ」を、図画の時間にかきました。
ひよこをやさしく、みまもりながら遊んでいるちやぼの親子のようすが楽しくかけています。
まわりのようすも、くわしくかけたらよかったね。
（沢海小　石井ムツミ先生）



「お月さまのおそうじ」
沢海小学校三年　中村裕子

≪評≫
レコードで「お月さまのおそうじ」という話を聞いてかいた絵です。
お月さまがくもっているのを心配してねむった三郎君を夢のおじいさんが、お月さまのおそうじにさそって行く途中なのです。
天の川のかわいらしい汽車をお星さまが、早く行ってねとやさしく照しているようですね。カラーで見てほしい絵です。
（沢海小　片山敏子先生）